

「全少」を日本一研究する指導者による提案

# ZENSHOに 挑戦しよう！



養正館館長・渡辺貴斗 第59回



子どもたちに伝えることば（その10）

## ひとこと加える3「感謝を促す」

### ★褒められても否定されても「ありがとう」

15年ほど前の指導者駆け出しのころ、私の道場は誰も返事もしないような無法地帯でした。そんな折、ある中学男子が道場に入門したことで、革命が起きました。

彼は、初めから礼儀・しつけが身につけており、私が褒めると「ありがとうございます」とこちらに体を向けお辞儀をし、ダメ出しをしても同様に「ありがとうございます」と深々と頭を下げていました。私はそんな彼の態度に「なんて素晴らしいんだろう」と感動しました。

そこで、道場生に、「これからは、先生から教えてもらったら、『ありがとうございます』と言うようにしましょう」と指導しました。

### ★直しをされたら「ありがとう」？

そんなある日、稽古中に、ある女の子の修正点をダメ出ししました。おそらく、「もっと膝を曲げなさい」のように言ったのだと思います。

その子は何の反応もなく返事もしませんでしたので、「指導されたら、『はい』と返事をしなさい」と叱り、さらに「本当は、『はい』どころか、『ありがとうございます』と感謝すべきだ」と皆の前でしつこく説教しました。

その子が帰宅して30分ほどして、そのお母さんから苦情の電話がかかってきました。迎えの車に乗る込むなり大泣きして、お母さんに「ありがとうご

ざいますと言いなさいと叱られた」と訴えたそうです。

「ダメ出しをされたならば、ごめんなさいとか、すみませんのはずなのに、なぜありがとうと言わせるのですか？ おかしくないですか？」と興奮気味にそのお母さんは話されました。

どんな状況で「ありがとう」と言うように指導したのか丁寧に説明させていただき、最後は何とか納得していただきました。

この時から、「ありがとう」という言葉はどんな場面で使うのだろうか」と深く考えるようになりました。

### ★「すみません」より「ありがとう」

ダメ出しをされたら、通常は、そのお母さんのおっしゃるように、以下に示したAやBのように「ごめんなさい」とか「すみません」になりますね。

A なんでもできないんだよ。やる気あるのかよ。

→ はい、すみません。

B もっと膝を曲げなさい。

→ はい、すみません。

一方、これらを「ありがとうございます」に言い換えてみます。

a なんでもできないんだよ。やる気あるのかよ。

→ はい、ありがとうございます。

b もっと膝を曲げなさい。

→ はい、ありがとうございます。

aはおかしいですが、bは成立しますね。Bのように「すみません」でも良いのですが、bの「ありがとうございます」の方が前向きな感じがします。言っている本人も、聞いている指導者も、お互いに気持ちの良いやりとりになっています。aのような、工夫のない、心無い声掛けは論外ですが。

さきほどの黙ってしまった女の子ですが、自然に「ありがとうございます」と言えるように、私が声掛けを工夫すればよかったです。女の子が黙ってしまったのは、声掛けに反応しなかったのではなく、反応できなかったのです。以下のように言っていれば、ありがとうございますとお礼まで言ってくれたかもしれません。

おお、いいねえ。膝を曲げたらもっと良くなるね。

→ ありがとうございます。

### ★感謝を促す

この場合、「すみません」ではおかしいですね。よって、子供たちに、「ごめんなさい」「すみません」と反省させてしまうのか、「ありがとうございます」と前向きな気持ちにさせることができるのかは、指

導者の声掛けひとつで変わってくるということです。ひとこと肯定する言葉を加えればよいのです。

子供たちが、「すみません」と言うということは、反省させられているわけです。「お前はできていない、ダメな奴だ」と言われているから謝るわけです。これではやる気が出ませんね。大人しい子だったら、黙りこんでしまうことでしょう。

相手に気持ちよく動いてもらいたかったら、「ダメ出し」ではなく、「アドバイス」と受け取ってもらえるような工夫が必要です。

そのためには普段から、「コイツ、できないヤツ」ではなく「この子は本当はできるはず」と見るように心掛けていれば、声掛けが自然と変わってきます。

こちらから何を言っても、すべて「ありがとうございます」と自然と返してもらえようになったら最高ですね。

### PROFILE

■渡辺貴斗 TAKATO WATANABE

1968年4月20日生まれ。7歳から父である館長から空手の手ほどきを受ける。児童心理学や成功哲学を研究して子どもたちの「心をつくる」指導法に切り替え、2013年5名、2014年・2015年7名、2016年5名、2017年9名、2018年・2019年5名を全少入賞させ、一道場での全国最多入賞数の記録更新中。道場経営でも、一道場で350名を超える大躍進を続ける。



空手道場 養正館 / 静岡県沼津市本町 11-12



## どうやって道場生 350名に増やしたか? その16

### ●少子化で、人口も少ない?

小泉内閣の「聖域なき構造改革」により、主流だった中流家庭は減り、格差がますます拡大していると言われてい

ます。それが良いか悪いかは別として、全国の道場を見てみると同じような現象が起きているように思います。極端に生徒が集中している道場と、生徒数が極端に少ない道場とに二分されているように見えます。

養正館は人口20万人の沼津市において、1道場で350名の道場生を擁します。先日、人口10万人の都市に道場を持つ先生から、「養正館は人口が多い沼津市だから生徒が多くてうらやましいよ。うちなんか田舎だから15名ですよ」とおっしゃっていました。しかしながら、10万人だったら半分の175名いるはずなので、これでは計算が合いません。また、「今、少子化だからどうしても増えませんね」とも、

おっしゃっていました。しかしながら、昔と違って（昔は大勢の兄弟姉妹がいて、全員に習い事させる余裕なんてありませんでした）、今では中国の一人っ子政策のように、貧富の差に関わらず、どの家庭も1人の子に教育費をふんだんに使い（貧困家庭でもスマホと教育だけにはお金を使うという統計があります）、多くの子が複数の習い事を掛け持ちしています。習い事をする絶対数は、昔より今の方が多いのではないのでしょうか？

このような時代ですので、逆に塾や習い事の教室が成功するチャンスなのです。チャンスと考えるか、初めから諦めてしまうかで、スタートラインに立つ段階ですべてが決着しているのです。

「田舎だから」、「少子化だから」と周りの道場が皆一様に諦めているということは自分だけ突き抜けるチャンスなのだ、と考えるてみてはいかがでしょうか？